信浄寺だより

92号　二〇二五年七月

お経をいただく

今年も五月十二日、十三日に例年通り永代経法要を勤めさせていただきました。講師の先生が「永代経法要」には「経」という字が入っていますと言ってお経のお話をしていただきました。

「お経」とは釈尊「お釈迦さま」が説かれたお説教を、後に文字に表していただいたものです。皆さんもよくご存じの『阿弥陀経』の初めは「如是我聞」ということばから始まっています。これは釈尊のお説法を聞いた人が「我、是の如く聞く」ということです。私たちがお経を読むときは、仏さま（釈尊）のお話を聞くということなのです。

「永代経」とは「永代読経」ということばであり、亡き人をご縁として永代に（未来に向け永く）お経を読むということです。浄土真宗では、「永代経」とは仏恩を報謝し、聞法の機会を得る法要で、故人への追善供養ではなく、懇志は法座や寺院の維持存続を通じて法義が永代に伝わることを願って納められるものとしています。

信浄寺では、五月十二、十三日の永代経法要は、多くの先人たちを忍び、ご法義を聞かせていただく法要です。お経をいただくのは私たちです。追善供養で先人たちへ捧げているのではありません。法を聞くとは、この世界で私たちがどう生きるか、いかに生活するかを聞いていくのです。六月の信浄寺門前の掲示板には、

「何故　死ぬのかと問う人は多いが　何故　生まれてきたのか
何故　生きているのかを問う人は少ない」

また別の日に勤めさせていただく「特別永代経」は身近な方が往生されたご縁で、懇志を上げていただいた方をお呼びして法要を勤めさせていただいていますが、こちらも身近な方の「ご往生」からご縁をいただいて、残された私たちが「お経」をいただいているのです。

たまに「お寺に『永代経』を納めておけば、後の供養は任せておける」と言われる方があるようですが、往生し、仏となられたはずのご先祖にお経を聞かせるのではありません。お経が必要な

のは、いまこの娑婆世界に生きる私たちです。浄土に往生されたご先祖は、残していった私たちにお経を聞いて欲しいと願われているはずです。

お経を聞いても難しい漢字が並んでいるし、意味が分からないと思う方も多いと思いますが、法要では読経だけではなく、ご法義が少しでも伝わるようにご法話があるのです。ご法話はお経の中に説かれたほとけさまの教えを伝えさせていただきたいと願ってされています。

永代経法要だけではなく、十二月にお勤めする「報恩講」もお勤めの後にご法話があります。大事なご縁に遇わせていただく私たちですから、ご法話を聞かせていただく「聴聞（ちょうもん）」を忘れないようにお願い致します

修多羅（しゅたら）によりて真実を顕（あらわ）して、横超（おうちょう）の大誓願を光闡（こうせん）す
広く本願力の回向によりて、群生（ぐんじょう）を度（ど）せんがために一心を彰（あらわ）す

『正信偈』

娑婆世界…梵語（サンスクリット語）のサハーを音訳したもので、堪え忍ぶ世界という意味。忍土ともいう。

修多羅……梵語のスートラを音訳したもので経と意訳する。

光闡（こうせん）……明らかにあらわすこと。

群生（しゅじょう）……多くの生類、生きとし生けるもの。一切衆生。

諸行事について

信浄寺での次の大きな行事は十二月の報恩講になりますが、本山本願寺、岐阜別院でも法座が多く勤められます。是非ご聴聞ください。信浄寺では、二ヵ月に一度壮年会を開いて、お勤めとお話をさせていただいています。詳しくはお尋ねください。

浄土真宗本願寺派　寂照山信浄寺